

## 医学系研究に関する情報公開について

西暦 2025 年 8 月 10 日作成

下記の研究は、福岡リハビリテーション病院の医療倫理委員会から承認され、病院長の許可を得て実施するものです。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

<b>研究課題名</b>	運転評価における半側空間無視評価の特性と概念の検証
<b>当院の研究責任者 (所属)</b>	リハビリテーション部 黒木 清孝
<b>研究期間</b>	病院長許可日 ~ 西暦 2027 年 3 月 31 日
<b>調査データの該当期間</b>	西暦 2024 年 4 月 ~ 西暦 2026 年 10 月
<b>研究対象となる方</b>	2024 年 4 月 1 日から 2026 年 10 月 31 日までの期間に運転再開を希望し運転評価を受けた脳血管疾患患者
<b>研究の意義と目的</b>	<p>(背景)</p> <p>半側空間無視は、「大脳半球病巣と対側空間の刺激に対して、検出・応答・方向付けできない状態」と定義されており、近年のスコーピングレビューによるサブタイプとして、①参照枠(自己中心性無視・物体中心性無視)、②処理段階(消去現象など)、③空間領域(遠位・近位空間など)の次元があると言われている。半側空間無視は、これらの 3 次元のいずれかまたは全ての組み合わせで起こりうるとされている。その他、視空間性注意ネットワーク(能動性・受動性)や動的要因が述べられており多様な病態を示すため、単一検査で全てのサブタイプを識別する事は困難であり、各要素を含んだ評価ツールの使用が求められる。</p> <p>上記により、近年では複数の評価が開発されているが、これらの評価機器は、静的・動的概念ではどのような位置付けになるかは不明である。</p> <p>(目的)</p> <p>そこで、研究目的は以下の 3 点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各評価ツールの位置付けを検討する(静的・動的)</li> <li>②半側空間無視の出現頻度の違いを明らかにし、対象者を静的・動的評価といった検査特性と関連したサブタイプに分類できるか</li> <li>③サブタイプ間で人口統計学的・臨床的特徴の違いを同定できるか</li> </ul> <p>(意義)</p> <p>本研究により、各評価の特徴的病態解釈だけでなく、各評価の位置付けが明確になり目的に応じた評価選定(静的～動的)に繋がる。</p>
<b>研究の方法</b>	人口統計学的・臨床的特徴の群間比較 各評価におけるパフォーマンスの基盤となる因子構造の分析

<b>研究に用いる試料・情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本情報(年齢・性別・発症日・診断名・損傷側・利き手)</li> <li>・身体機能評価(Br.stage・感覚検査・視野障害)</li> <li>・神経心理学的検査(MMSE・BIT 通常検査・TMT-J・FAB)</li> <li>・半側空間無視機器評価(@Attention・Vi-dere)</li> <li>・ドライビングシミュレーター(ホンダセフティナビ)評価</li> </ul>
<b>外部への試料・情報の提供</b>	なし
<b>個人情報の取り扱い</b>	利用する情報は、匿名化(どのデータが誰のものかをわからなくなること)をします。個人情報を厳重に保護し、研究成果は学会・論文等で発表を予定していますが、その際も個人が特定されない形式で行います。
<b>本研究の資金源 (利益相反)</b>	本研究に関連し開示すべき利益相反にある企業等はありません。
<b>お問い合わせ先</b>	<p>福岡リハビリテーション病院      所属    リハビリテーション部  <u>担当者:</u>    <u>黒木 清孝</u>          電話: 092-812-1555(代表) 対応可能時間 平日 9:00~17:00</p>